

公益社団法人移行後の活動を振り返って

移行後四〇号目を迎えて

本協会は、二〇二二年二月三日に公益社団法人へ移行しました。その後、会報誌は今号にて移行後四〇号目となりました。

皆様方のご協力に心より感謝申し上げますと共に、公益社団法人日本マレーシア協会として、これからも日本とマレーシアの民間交流を促進するための公益活動を推進するべく努めて参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

本稿では、これまでの会報誌で取上げた記事を中心に、公益社団法人移行後の主な活動を振り返り、まとめてみました。

本協会の活動内容の変遷

その前に、日本マレーシア協会が行ってきた主な活動内容の変遷（社団法人化以降）について、整理してみます。

一九七〇年代後半

駐日マレーシア大使館等と共催し、マレーシア要人来日時の歓迎会や企業進出に関するセミナーの開催、文化交流として日本の少年少女合唱団のマレーシア派遣公演実施、マレー語教室開催、その他、現在まで続く機関誌発行・配布、各種懇談やセミナーを開催。

一九八〇年代

JMA 日本語学校の設立・運営（設立五年後に他財団へ運営移行し、その後閉校）、留学ビザのための機関保証等によるマレーシア人留学生援護活動（主に私費留学生を対象）、マレーシア研修訪問等の支援活動等。

一九九〇年代

一九九一年に都内で行われた環境セミナー（サラワク州の持続的森林管理に関する講演等）への参加を機に、同州の森林調査を開始し、一九九五年からサラワク州における熱帯雨林再生活動開始。親善使節団として毎年マレーシア各地を訪問、マレーシア総合セミナーの開催。

二〇〇〇年

親善使節団として、毎年サラワク州で植林ボランティアを実施するなど、熱帯雨林再生活動による人的交流を推進。文化、経済、教育等に関するセミナー開催。

二〇一〇年

熱帯雨林再生活動を活用し、環境国際交流として、両国青年を対象とした各種研修、日本の大学生を対象としたインターンシップ、マレーシアの大学を対象とした日本におけるインターンシップの支援、マレーシアの大学生を対象とした招聘プログラムの実施。書籍の紹介を通じた文化交流を開始。

移行後の主な活動

環境国際交流

サラワク州において一九九五年から実施している熱帯雨林再生活動を活かし、環境をテーマとした国際交流を開始しました。地球環境基金の助成を受けて実施した「ボルネオ島サラワク州における地域住民参加による持続的な熱帯雨林再生システム」の構築を通じてのESDの可能性の検証（二〇一一年度～一三年度の）成果をもとに、両国の子供や青年が交流するプログラムを、日本の大学生や社会人の自主的な参加を得て、交流活動を継続しています。



日本の大学生が小学生と交流

海外派遣研修

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部が、我が国の環境NG

Oによる国際協力活動を支援するため、人材育成事業として実施している「海外派遣研修」事業の企画・運営を受託し、「海外派遣研修」マレーシア」を二〇二二年度と二〇二六年度に実施しました。

日本とマレーシアとの経済的な繋がり、森林保全（低地熱帯雨林と湿地林）と生物多様性保全、環境保全と開発をテーマとして、政府やNGOの環境保全への取り組みに関する講義や意見交換、活動現場の見学や体験を行うプログラムを実施しました。

本研修の経験は、本協会において人材育成事業に定期的に取り組みきつかけとなりました。



サラワク州で研修（2012年度）

駐日大使を囲む新春の集い

駐日マレーシア大使をお招きし、会員や関係者の方々との相互交流を深めることを目的に「駐日マレーシ

ア大使を囲む新春の集い」を二〇一三年度から毎年開催しています。毎回、一〇〇名を超える方に、ご参加頂き、本協会会長と大使閣下のご挨拶、外務省並びに日本マレーシア経済協議会の来賓による最近の日マ関係に関するお話を頂き、参加者同士の懇談を行っています。



大使（着席右から2人目）を囲んで

教育交流セミナー

日本の大学を対象に、マレーシアの大学との教育交流プログラムに関する情報を提供し、交流を開始するきつかけとなる場を提供するため、マレーシア政府観光局、株式会社紀伊國屋書店と協働し「駐日マレーシア大使を囲むマレーシアとの教育交流に関するセミナー&懇談会」二〇一一年度から一五年度に都内で開催しました。

毎回、首都圏の大学を中心に四〇

（五〇名の大学関係者が出席しました。本セミナーによってマレーシアとの交流を行う大学が増え、現在では多くの大学で短期長期のプログラムを実施するようになりました。



教育交流プログラムを推進

親善使節団で奉仕活動参加

毎年実施しているサラワク州へのマレーシア親善使節団訪問にて、二〇一三年度より、熱帯雨林再生活動地での植林作業だけでなく、クチン市が行う街の緑化活動、日本人墓地の清掃障がい者施設への物品寄贈などの奉仕活動にも参加しています。



クチン日本人墓地で清掃活動

各種表彰を授章

外務大臣表彰

日本とマレーシアの相互理解の促進のための活動が評価され、二〇一三年七月に「外務大臣表彰」を授賞しました。



外務大臣表彰式にて

環境大臣表彰

地球温暖化防止に顕著な功績のあった団体として、二〇一三年一月に「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の国際貢献部門賞を授章しました。



石原環境大臣より賞状を授与

緑綬褒状

二〇一七年一月三日付けで発令された秋の褒章において、緑化奉仕活動の推進など社会奉仕活動分野について功績顕著な団体として「緑綬褒状」を授章しました。

関係各位のご協力により、長年、地道に取り組んできたサラワク州の熱帯雨林再生活動が評価されました。



緑綬褒状を授章

柔道交流

サラワク州で実施した環境国際交流プログラムに参加した広島県廿日市の中学校教諭で柔道指導者の川本宏さんは、訪問がきっかけとなり同州との柔道交流を始め、二〇一三年からクチンを毎年訪問し、サラワク州柔道協会や中高校生との柔道交流を行っています。二〇一九年の年末から二〇二〇年の年始にかけて、川本さんの柔道の教えで、ロンドン・オリンピック六〇キロ級銀メダリストの平岡拓晃さんもクチンを訪問し、現地の柔道家との稽古や交流を行いました。



川本さん(左から4人目)と平岡さん(左から2人目)

インターンシップ実施

日本の大学生を対象とした、夏休み期間のインターンシップ・プログラムを二〇一三年度から実施しています。これまで、日本大学、明海大学、杏林大学からのインターンを受け入れ、事務所内作業や外勤体験などを行いました。



事務所内で作業体験

国際イスラム大学との交流

東洋大学から紹介を受け、二〇一四年度からマレーシア国際イスラム大学（IIUM）との交流を行っています。

ます。二〇一四年三月には、ザレハ・カマルディン学長ら五名の訪問団が来日し、日本の大学訪問と懇談会を実施しました。

二〇一五年二月には「ハラルをよく知るために」の編著者である同大学国際ハラル研修研究所とマレーシア観光・文化省イスラミック・ツーリズム・センターの代表者ら一名が来日し、都内でマレーシア政府観光局と共催でセミナーを開催したほか、農林水産業食料産業局との意見交換、JT B本社でムスリム・フレンドリー・ホスピタリティーについて協議、日マ友好議連と関係省庁との観光分野における日マ協力などについて意見交換を行いました。



成蹊大学を訪問(2014年3月)

マレーシア書籍の翻訳出版

二〇一四年度より、マレーシアの政府機関及び国立大学出版局等との共同出版による、マレーシア書籍の翻訳出版活動を行っています。これまで九冊を刊行し、現在も作業を続けています。

共同出版した書籍は、東京国際ブックフェアのマレーシア・ブースで展示したほか、著者や駐日マレーシア大使を迎えての出版記念式も行いました。二〇一六年九月には、ブックフェアに合わせて来日した書籍の著者らによる、イスラム金融をテーマとしたセミナーを開催しました。

二〇一八年一月、マハティール首相に随行して来日したマズリー・マリク教育大臣を紀伊國屋書店新宿本店へお迎えし、これまでに翻訳発行してきたマレーシア書籍の邦訳書の出版記念会を開催しました。

二〇一九年三月、マレーシア・ブトラジャヤの教育省において、マズリー教育大臣立会いのもと、マレーシア学術出版委員会、株式会社紀伊國屋書店、本協会による書籍の翻訳出版交流促進に向けた相互協力に関する覚書に調印しました。



翻訳出版交流覚書に調印 (2019年3月)

マレーシア・セミナーの開催

マレーシア政府観光局と株式会社紀伊國屋書店のご協力を得て、二〇

一四年度から一六年度に紀伊國屋ザンシアターにおいて、マレーシアの最新情勢、教育交流、ロングステイ等に関する「マレーシア・セミナー」を開催しました。中村滋元駐マレーシア日本大使の講演、教育交流プログラムの紹介、ロングステイ関係者による最新事情の紹介等が行われ、多くの方が参加しました。



マレーシア・セミナー (2016年5月)

招聘研修プログラムの実施 さくらサイエンスプラン

国立研究開発法人科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」を受託し、二〇一四年度から、マレーシアの大学生を対象とした招聘研修プログラムを実施しています。

これまで、マレーシア・サラワク大学から五五名、マレーシア国際イسلام大学から一〇名の学生が本プログラムで来日し、大学、研究所、企業等で日本の先端的な科学技術や教育に関する研修や、日本の研究者や学生との交流を行いました。



JAXAで研修

専門家招聘研修

国際緑化推進センターの助成を得て、熱帯雨林再生活動を実施しているサラワク州より、協働機関のマレーシア・サラワク大学やサラワク州森林局から専門家を招き、国内演習林やNPO等が行う森林保全活動等について視察と研修を行いました。



東大秩父演習林で研修

伝統文化の交流

サラワク州にて長年植林を行っていますが、持続的な活動を行うためには、地域の人々との相互理解が不可欠です。そのため、独立行政法人

国際交流基金アジア・市民交流助成プログラムと東京倶楽部の助成を得て、二〇一六年三月と二〇一七年三月に、日本とサラワク州の伝統文化交流を行いました。

貴重な伝統文化である神楽の継承に取り組んでいる広島県廿日市市の子ども神楽団「原亥の子舞子連中」の子どもたちと、サラワク州の植林活動地域に居住する先住民の伝統的な舞踊の継承に取り組んでいる子どもたちが、サラワク州と広島県を相互に訪問し、伝統舞踊を通じた文化交流を行い、お互いの歴史、異なった文化、宗教観などに触れ、国際理解を深める機会となりました。



サラワク州で子ども神楽を披露

日マ友好議連との連携

日本マレーシア友好議員連盟（会長・古屋圭司本協会会長）と連携し、マレーシアからの要人来日時の懇談会開催協力や、会長によるマレーシア訪問時の随行などを行っています。

ザヒド副首相来日（二〇一六年五月）、ナジブ首相来日（同年一月）、古

屋議連会長、有村議連幹事長訪マ（同年一月）、パندیイカル・アミン下院議長来日（二〇一七年九月）、アズミン・アリ経済大臣来日（二〇二〇年二月）時に、懇談会開催協力や随行を行いました。



アズミン経済大臣との朝食会 (2020年2月)

また、二〇一八年五月には、古屋会長がクアラルンプール日本人墓地に建立された「マレーシア日本人慰霊碑」の除幕式に出席しました。



マレーシア日本人慰霊碑除幕式

植林活動地が国立公園化

サラワク州にて長年植林を実施している二つの保護林区が国立公園と

なりました。アペン森林区(約二一〇〇ヘクタール)が二〇一六年に、サパール森林区(約四七〇〇ヘクタール)が二〇一八年に、政府によって保護林から国立公園へと昇格しました。日本の民間協力による植林活動地が「国立公園(完全保護区)」へ昇格することは、前例がない画期的なことであり、関係各位のご支援へ感謝申し上げますとともに、これからも州政府機関や地域住民の方々と共に活動を継続し、他の地域も昇格するように働きかけていきます。



アペン国立公園の2008年植林区画にて

インターンシップへの協力

ITBと加森観光株式会社による、マレーシアの大学生向けインターンシップ・プログラムの実施に協力し、マレーシア国際イスラム大学の紹介、学生選抜、実施中のサポートなどのコーディネートを行いました。

このプログラムによって、二〇一七年と一八年に、同大学の学生が三か月間の研修を北海道虻田郡留寿都村に

あるルスツ・リゾート・ホテルで行いました。本事業は、日マ政府による「東方政策二・〇」認定事業として実施されました。



北海道のホテルでインターンシップ

創立六〇周年記念会

本協会創立六〇周年記念会「感謝のタペ」を、二〇一七年六月に都内で開催しました。

当日は、会員並びに関係者のご参加を得て、安倍総理からのお祝いビデオメッセージや駐日マレーシア大使と外務政務官の来賓挨拶を頂いたほか、活動報告や懇談を行いました。



ビデオで祝意を伝える安倍総理

青少年研修プログラム

株式会社木下グループのご協力を得て、アペン国立公園「木下の森植林プロジェクト」地域(同社)協力で約二〇〇七年度から一〇年間で約六万本を植林したエリア)において、地域の子供達が定期的に訪れ森林保全の大切さを学び、植林作業などを体験する活動と、環境保全等の社会貢献活動に関心を持つ日本の青年を育成する「木下の森 青少年研修プログラム」を二〇一七年度から実施しています。

これまで、五〇〇名を超える活動地域の子供達と、六名の日本の大学生が同プログラムに参加しました。



プログラムに参加した小中高生(2018年8月)

トヨタ環境活動助成

二〇一八年から二年間、トヨタ環境活動助成プログラムの支援を得て「マレーシア・サラワク州における多様な森林造成のための地域住民主体の育苗活動」を実施しました。

サラワク州アペン国立公園に隣接

するトン・ニボン村の女性グループが村で育苗した果樹等の苗木を、村人が国立公園内に植林し、森林の多様化を図る活動を行いました。

多様な苗木を持続的に確保できるようにすると共に、育苗が村人の新たな生計手段として継続される仕組みづくりに取り組み、大きな成果をあげることができました。



村の女性が育てた苗木を植林用に運搬

タカサゴの森

高砂熱学工業株式会社のご協力を得て、サラワク州にあるマレーシア・サラワク大学構内で、同社初となる海外での植林活動となる「タカサゴの森 熱帯雨林再生プログラム」を二〇一八年一月から実施しています。

本プログラムは、マレーシア・サラワク大学構内で熱帯雨林再生モデルとなる森林を造成し、学生による森林再生の調査研究に活用することで、サラワク州およびマレーシア各地の緑化・熱帯雨林の保全と再生に役立てることを目的として活動を続

けています。

二〇一八年一〇月、マレーシア・サラワク大学構内で同社グループ社員が参加する初の植樹行事を開催し、サラワク州のアワン・テンガ副首相大臣、在マレーシア日本大使館の折笠弘雄公使を来賓に招き、総勢一三〇人による植林を行いました。



アワン・テンガ副首相大臣による記念植樹

マングローブ林再生活動

二〇一七年度より、マレーシアにおける熱帯雨林再生活動の一環として、マングローブ林再生活動を実施しています。

サラワク州では、国土緑化推進機構の募金国際緑化助成を受け、「地域住民参加型マングローブ林再生事業」を開始し、日マの専門家地域住民、マレーシア・サラワク大学生、日本の大学生らが参加する植樹活動を実施しています。

マレーシア半島部では、二〇一八年度より、経団連自然保護基金助成事業として「マレーシア・ケダ州ムルボック湿地保護林における地域社

会との協働によるマングローブ林保全活動を開始し、生物種の多様性において世界有数の地域とされるムルボック湿地保護林において、国立マレーシア理科大学、地域教育拠点センターと協働し、地域社会参加によるマングローブ林保全プログラムと環境学習拠点づくりを行っています。

二〇一九年度からは、株式会社木下グループと協働し「木下の森 マングローブ林再生活動」を、同地域で実施しています。



サラワク州でマングローブ植林 (2020年2月)

オランウータンの森保全活動

二〇一七年度、日マ外交関係樹立・本協会創立六〇周年の記念事業として「マレーシア・サラワク州オランウータンの森保全活動」を実施し、株式会社ヤクルト本社、株式会社マシダム、株式会社フジタ、佐藤工業株式会社から協賛を頂き、サラワク州セメング野生生物保護区のランドエド地域で、オランウータンの生活圏を保全するために果樹の苗木四〇〇本の植林を行いました。



オランウータンの森に果樹を植林

オランウータン保護区へ寄付

二〇一七年度より、サラワク州セメング野生生物保護区にあるオランウータン保護センターへ、オランウータンが暮らす森の保全と、オランウータンの保護活動のために、毎年千リンギを寄付しています。



オランウータン保護区にて

セミナー&懇談会を開催

二〇一八年度一〇月から、最新マレーシア事情に関する講演と本協会の活動報告を行う「セミナー&懇談会」を開催しています。会員や関係

者の方々との交流や意見交換の場として、今後も開催していく予定です。



最新マレーシア事情の講演 (2019年10月)

サラワク州と協定書に調印

二〇一九年六月、サラワク州スリアン地区サパール・アグロフォレスト・センターにおいて、本協会はサラワク州政府と「森林景観復元」プログラムの推進に関する協定書の調印を行いました。



協定書の調印式

プログラムの一環として、州政府による保護と協力を得て、長期間にわたり継続されることになりました。

大学に日本語図書を寄贈

本協会の働きかけにより日本政府支援によって日本語教育関連機器等整備が行われた、マレーシア国際イسلام大学の日本語教育リソースセンター(ラザク・ルーム)へ、関係各位の協力を得て図書約三〇〇冊、映像教材約一〇〇本、その他教育素材(かるたなど)を寄贈しました。

二〇一九年一二月に開催された開所式には、岡浩駐マレーシア日本大使、宮下一郎内閣府副大臣、ズルキフリ副学長、モハメド・アズル言語学部長らのほか、本協会から小川理事長と森林理事が出席しました。ラザク・ルーム開所以後、同大学で日本語を学習する学生が増加し、将来的に、日本語が副専攻から専攻に格上げされる予定です。本協会では、今後も日本語教材の寄贈を続けていきます。



ラザク・ルームの開所式 (2019年12月)

百万本を目指した植林活動

三菱商事株式会社のご協力による「熱帯雨林再生プロジェクト」を、二〇〇八年度からサラワク州スリアン地区のアベン国立公園とサパール国立公園を中心に、サラワク州政府、マレーシア・サラワク大学、地域住民と協働して実施しています。二〇一九年度までに約四〇万本を植林し、一〇〇万本を目指して植林活動を続けています。

二〇二〇年度から、より効果的な植生回復を目指して、二次林地域でのライン式と、劣化の激しい草地での密植式を組み合わせた植林方法で作業を行っています。密植式で植えられた地域の中に調査区画を設定し、定期的に成長データを収集しています。収集したデータは専門家による分析を行い、今後の植林活動に活用する予定です。



サパール国立公園等で植林を推進

今後も、公益社団法人として、日マ両国の民間交流を促進するための公益活動を行って参りますので、ご理解と協力をお願い致します。